

Slerの中から見た
Agile開発

2010年11月21日
高橋

大切なことは
最初に

ご清聴ありがとうございます
ございます！

まとめ

Agile開発は、

価値
スピード
卓越した仕事

をもたらします

自己紹介

- 愛媛出身、愛大出身(ローカルな話)
- 在京のSlerの中の人
- Javaとか.NETとか、Rubyとかをやっています
- なんとか10年勤めました

- twitter: @walnut210
- mail: walnut.g@gmail.com

洒 值

「このシステムは高品質です」という
キングファイル10冊の紙



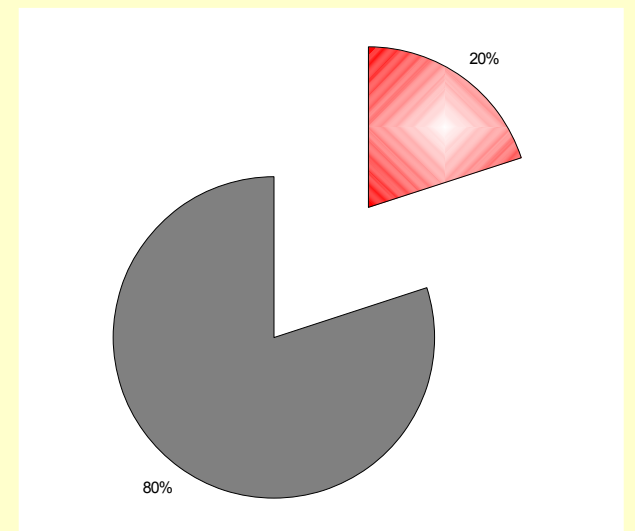
「このシステムはユーザーストーリーを満たしたテストをパスしています」という実際のプログラム



どちらが
必要ですか？

優先度の低い要求
はありますか？

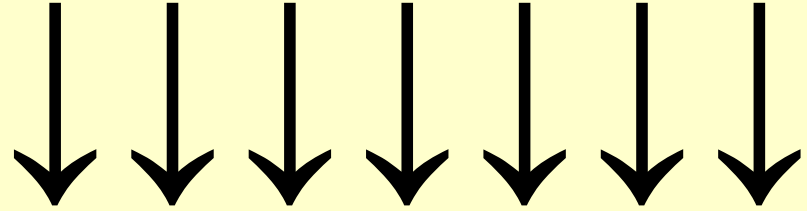
価値を生み出す2割に 集中します



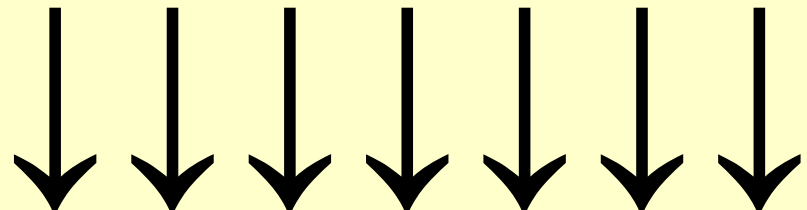
残る 8割を「今回の開
発からははずす」には
ユーザーさんの意思が
不可欠です

スピード”





短納期化の圧力



「6ヶ月～1年」が...

「じゃあ3ヶ月で」
になった

開発完了後→本番環境
開発中は本番環境相当に載らない

引き渡してからクリティカルな問題が出る



工程管理が建前に

実際、工程を終えました報告した翌日

「要求変わりました」

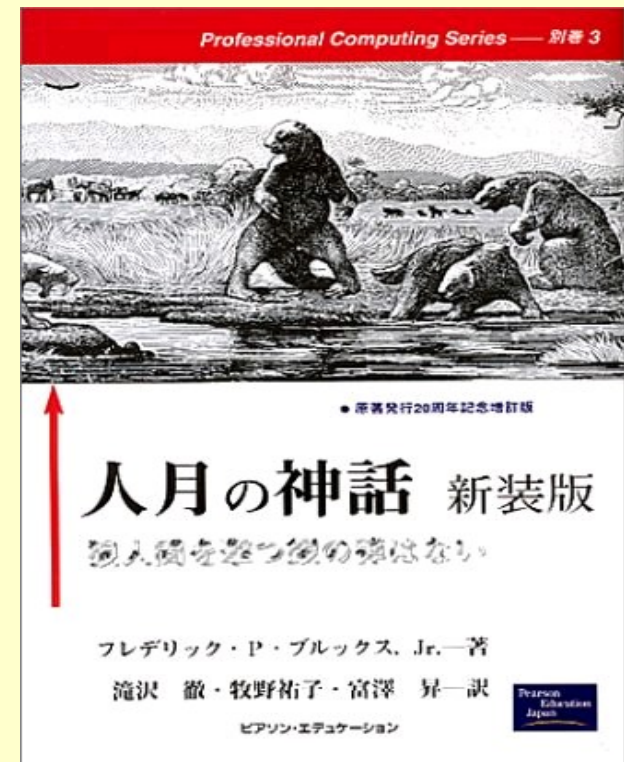
で、やり直し。
しかも納期は
「変わらない。」

「手戻りなのでリスケです」というと揉める

~~よるしいならば戦年だ~~

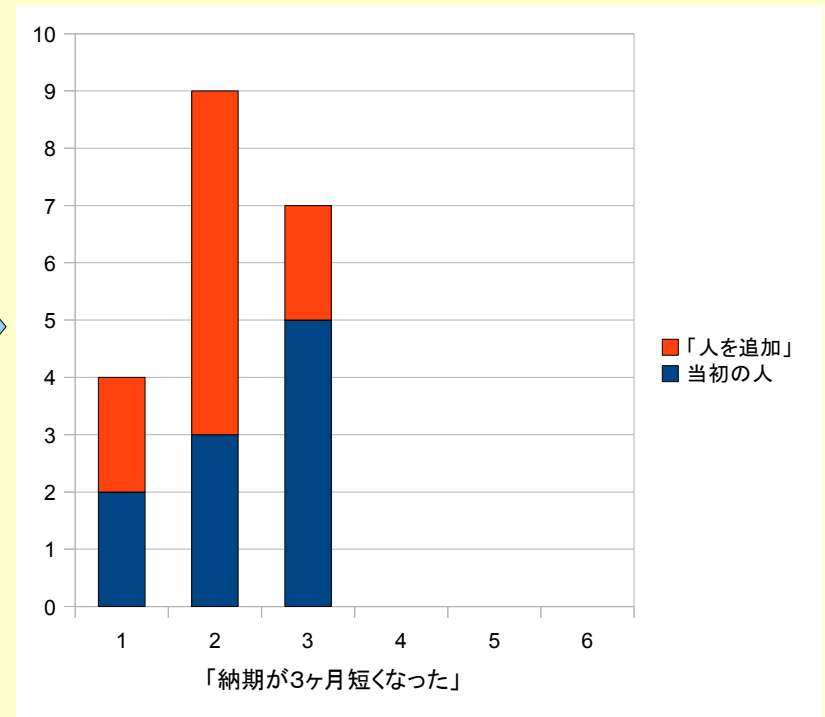
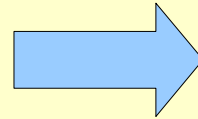
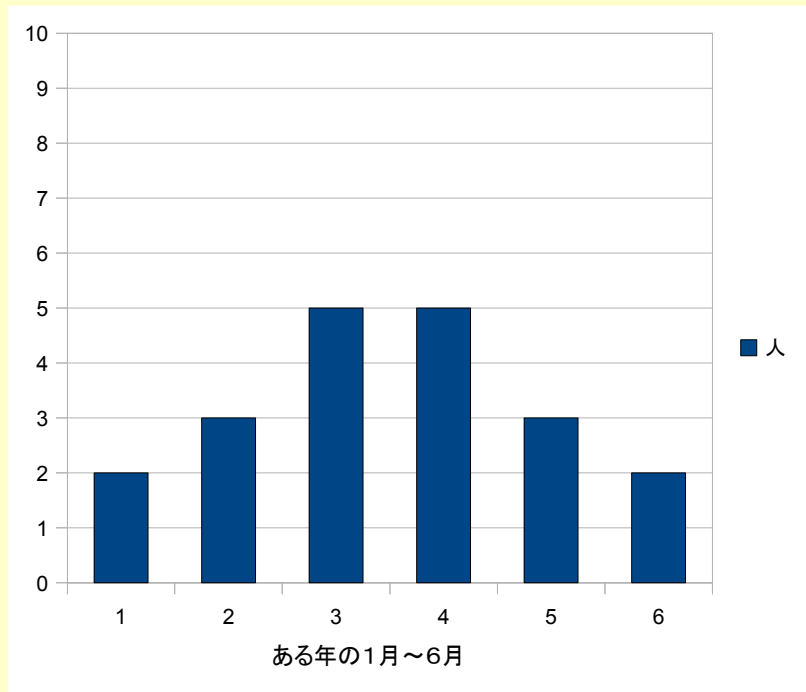
揉めて、3ヶ月の内の1週間停めるともうツライ

「人月」という単位



「人」と「月」は交換可能ではない

よくある間違い



増員して月を減らす条件

- 文脈に依存しない作業
 - 機械にまかせられる
- お隣さんじゃないサブシステム
 - 文脈を共有していると何かしら影響はある
- 経験者を増やす
 - コミュニケーションが浸透するまでのオーバーヘッド

期間を延ばして人を減らす条件

- 期間を無限大に持って行くと0人でできる??
 - 探索型のプロジェクトは、期間も延びるし、人もそれなりにかかる。
- 四半期や半期に製品が更新されるので、期間を延ばすこと自体が難しい
- 企画と予算折衝で知らないうちに時間がとられる
 - フロントローディング
 - 開発者も踏み込んでいく。
 - 早く始める。

※業界全般のお話です。念のため。

卓越した
仕事



「ゴールを奪う」のが仕事だとすると



Agile開発は、「ゴールを奪う」ことに集中します

現状は、「ゴールを奪う」ために、

企画書を作成し、
計画書を作成、
詳細な計画書を作成し、
計画書に沿ってゴールできることをチェックし、
企画どおりゴールできることをチェックし、
それぞれの課程が完璧であることチェックし、
偉い人の承認を受けてからやっている。

と言えます。
その間に、

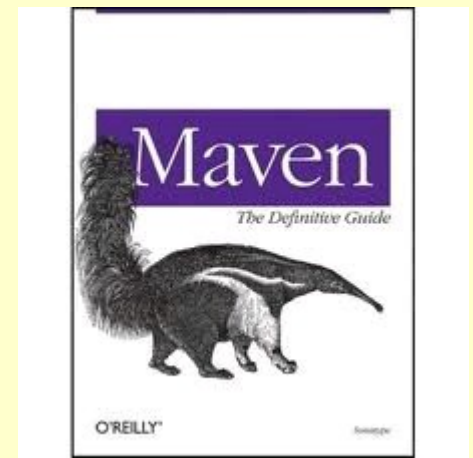
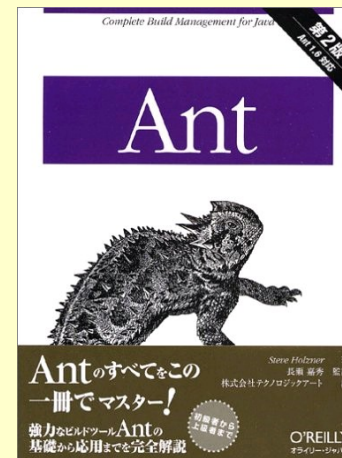
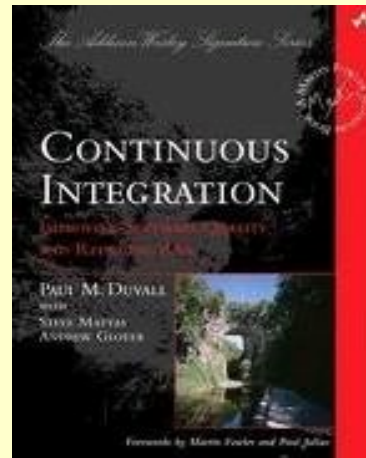
「ゴールが移動」します。



真に価値のあるコードを書きます

手順を創ります

手順を守ったり、記録したりするのは、
まずコンピューターにさせることです



人が手順を守るということも大事

飛行機や鉄道の運行



プロトコルにまず従う

時々、例外が発生する

例外対応もプロトコルがある
しかも人間の判断重要

Agile開発では、

手順は

プロが自分達を律するためにあります

なぜその手順なのか、
いつ使うべきか、
いつ変えるべきか、
変えるならばどう変えるか、
を知っています

何故、
Agile開発なのか

「ウォーターフォールでうまくいってる」

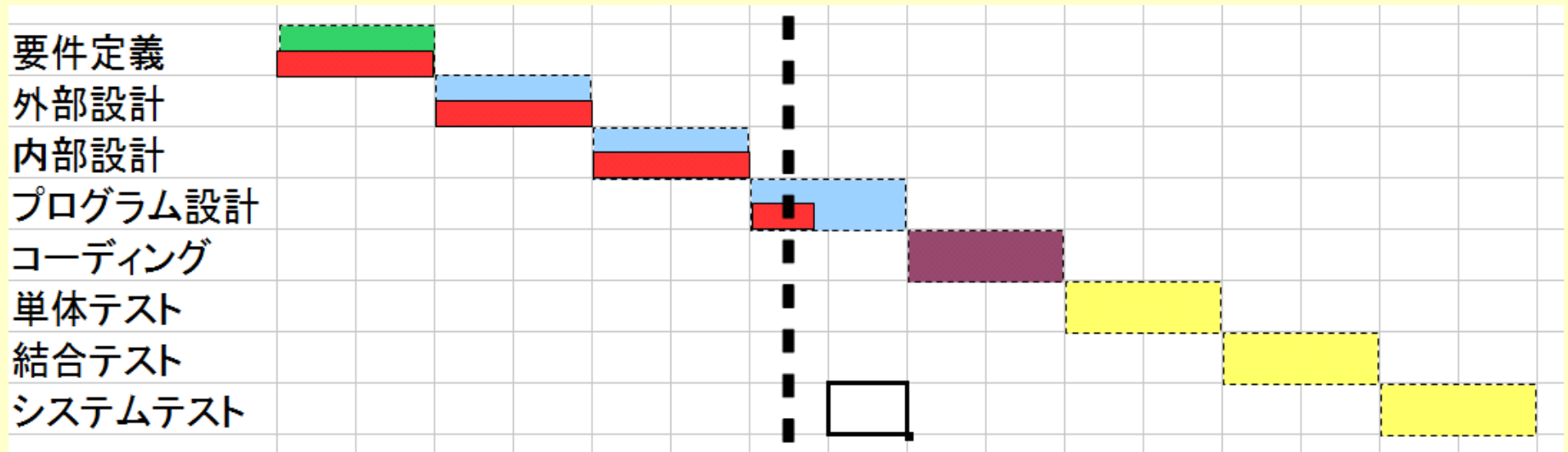
可能性1

騙されてます

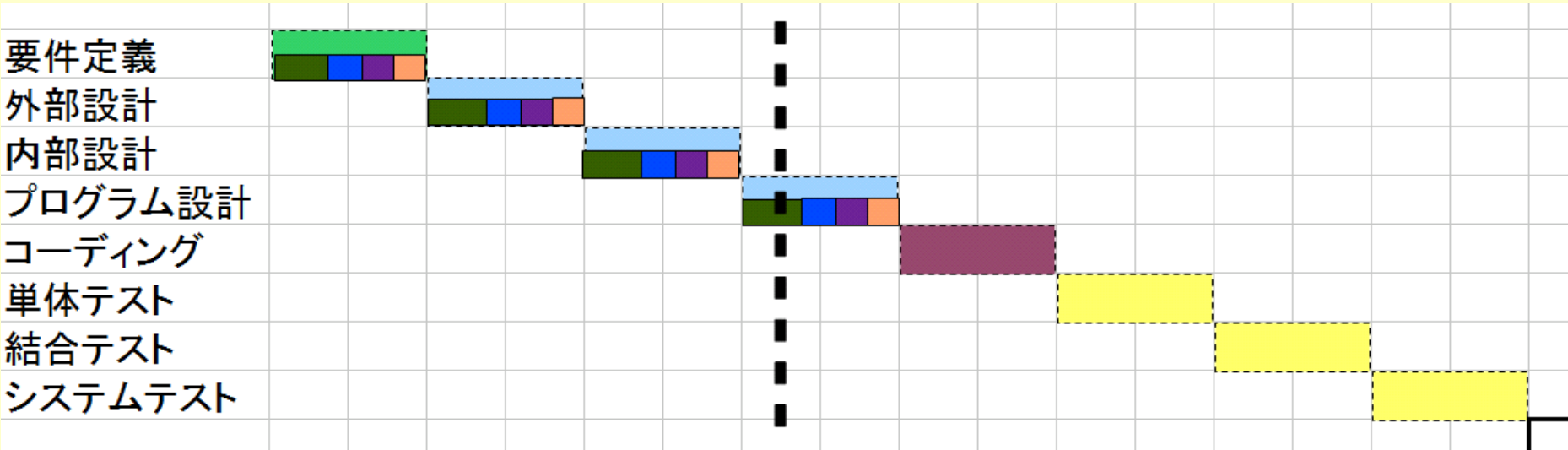
可能性2

実は
Agile開発をやっている

報告書上はこう



実際はこう



「実際は・・・」は、もともとは行われていた

「プロトタイピング」
「先行開発」

「IS○を記録的に満たせばよい」

となって、

「実際は」から

日本的な、フィードバックの無いウォーターフォール
になった

混沌に光を当てた効果はあった

光が強すぎて、実態が見えない
「消失効果」



可能性3

本当にうまく行っている

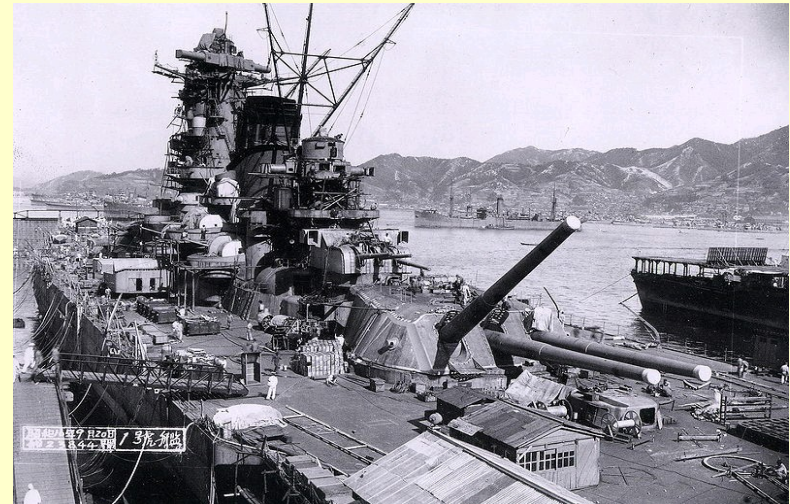
Agile開発の必要ない領域

Where?

課題だと
思っていること

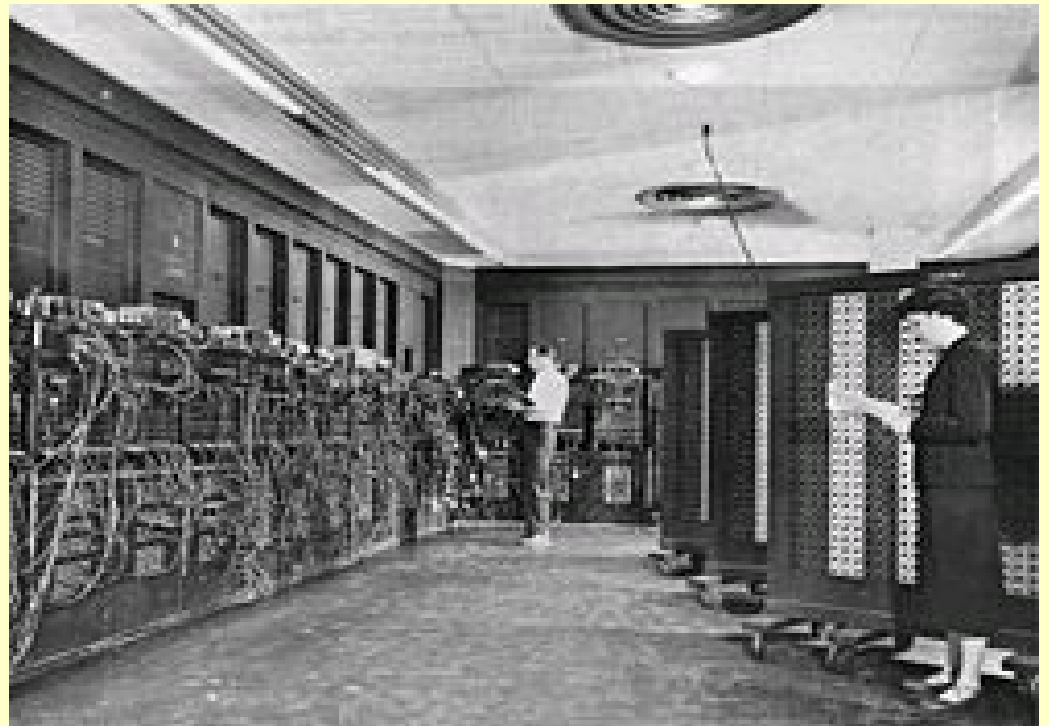
大規模システム

- アーキテクチャで縛る必要がある
 - アーキテクチャとアジャイルの融合
- 文脈に依存しない作業を作れる
-



レガシーシステム

- 一度に全ては変えられない
 - アジャイルでないコードやシステムと付き合う必要がある



ビジネス慣習

- 要件は固められる→常に変わる
- 工程を管理できる→動くシステムをWatchする

まとめ

Agile開発は、

価値
スピード
卓越した仕事

をもたらします

Q&Aは懇親会で

ありがとう
ございました！

「ものづくり」の向こうの「Agile開発」を目指して